次に、「実験力」。スティーブ・ジョブズは、20 代のはじめころ、ウォークマンをさかんに分解していたそうです。スターバックスの創業者ハワード・シュルツは、若き日にカフェバールめぐりのためにイタリアを放浪していました。どの国の人も、外国との出会いの中でつかむヒントがあります。

イノベーティブな起業家は、科学者と同じような目線で試作品をつくったり、 パイロット版を販売してみたりと、積極的に新しいアイデアを試してみます。

４番目は「人脈力」。イノベーティブな起業家は、芸術家や学者、政治家、 冒険家、科学者、思想家など、自分とは異なる分野の人との意見交換を好みます。自分と価値観や意見の違う人、バックグラウンドが異なる人との接点を積極的に作りましょう。この人とは合わないな、という人が誰にでもいるものです（笑)。でもそういう人とのおしゃべりから、こちらに感度さえあれば、意外な収穫があったりします。皆さんも、留学生やほかの大学の学生と、機会があったならぜひ積極的に関わってみてください。

最後は、「関連づける力」。お気に入りの映画は、その内容や俳優、監督、ロケ地などはもちろん、その映画を最初に見た日のこととか、映画をめぐって人と話した内容など、あなたの記憶の中でたくさんの事柄と結びついています。人間の脳は、ものごとを人生のさまざまな経験と関連づけて想起するように作用するものなのです。したがってさまざまな知識や経験を積めば積むほど、脳はつながりを増やしていくわけです。

この５つの能力を積極的に伸ばしてくことが、変化の激しい未来を生き抜いていくために、きっと皆さんの力になるはずです。アントレプレナーの力は、つまるところ、「人生を楽しく主体的に生きるための力」なのです。

それと、自分のことを客観的に深く知りましょう。こういうとき、自分はこういうことしがちだな、とか、こういうパターンに入ってしまうな、など、自分の思考やふるまいのクセ、特性を知るのです。それが客観的にわかれば、長所をさらに活かしたり、欠点をカバーすることができるでしょう。

たくさんの設問を解くことで自分の特性から９つのタイプを分類する、エニアグラムという手法があります。今日ここでは詳しくはできませんが、９つのタイプとは、「１．完全主義者」、「２．献身家」、「３．達成者」、「４．芸術家」、「５．観察者」、「６．堅実家」、「７．楽天家」、「８．統率者」、「９.調停者」です。

年齢やキャリアによっても、この分類は変わってくると思います。ちなみに私は、「統率者」のタイプと出ました（笑)。

これは、同じタイプの人同士よりも、自分とタイプや価値観が異なる人からこそ、実は得られる学びが多い、というトレーニングの一環です。ネットでエニアグラムを調べるとたくさん情報が得られますから、興味のある方はやってみてください。

アントレプレナーシップを養うトレーニングとして、次のようなこともおすすめします。

◎身近なものや人に対する質問を 10 個考えてみる

◎何でもかんでも図解してみる

◎常識にとらわれず、型にはまらない考え方を心がける

◎自分の思考や行動の癖を理解する

◎自分と価値観が異なる人と接点をもつ

◎とりあえず何か新しい行動をしてみる

旅行や留学はとても有効です。さまざまなインターンシップやアルバイトを体験したり、いろいろな世代のいろいろな趣味嗜好、カルチャーと交わってみましょう。

最初の方で、北大で「DEMOLA HOKKAIDO」という、フィンランド発の産官学連携イノベーション創出プラットフォームを運営していることにふれました。企業が抱える課題に対して学生が企業にさまざまなアイデアを提供することが単位になり、企業に評価されれば対価を得ることもできる仕組みです。

ＤＥＭＯＬＡが根ざしているのは、激しい競争で敗者がふるい落とされ、最後に勝った者だけが巨万の富を得る、というようなアメリカ流の世界観ではありません。地域の企業がともに学び合い、切磋琢磨しながら社会全体を底上げして強くしていく、北欧型モデルなのです。

私はいま、大学の研究開発の成果を社会にうまく実装していけるように、北海道からのスタートアップの分厚いエコシステム（生態系・すべてのステークホルダーと社会環境の複雑で安定的な関わり）の土壌づくりを着実なものにしていきたいと思っています。国も自治体も、若い力をそうした方向に向けていこうと、いろいろな施策を展開しています。ぜひ情報を集めてみてください。

どの大学の学生でも参加歓迎なので、興味があればサイトをのぞいてください。もちろん、先輩の商大生も参加していますよ。

マーク・ザッカーバーグがフェイスブック（現メタ）を起業したのは 19 歳。スティーブ・ジョブズは 21 歳でアップルを立ち上げ、ジェフ・ベゾスがアマゾンを作ったのは 31 歳でした。

一方で、豊田佐吉がトヨタグループの源流となる豊田自動織機を創業したのは 59 歳。カーネル・サンダースがケンタッキーフライドチキンのフランチャイズビジネスをスタートさせたのは、61 歳でした。

行動を起こすのに、遅すぎるとか早すぎるということはないのです。

◎おわりに

エバーグリーン講座は、現役の商大生が卒業生のキャリアに触れることができる貴重な機会であり本学のキャリア教育の中心的な科目のひとつです。登壇していただく講師のみなさまは、実際の仕事内容や業界の最新情報を紹介しつつ、ご本人のキャリアの変遷とその節目における大小の決断、その決め手となった具体的な事例や長い社会人生活を振り返って獲得した職業観、人生観といった多彩な話題にも触れていただき、毎回講師の職業人生が凝縮されたエキサイティングな 90 分間を味わうことができます。本稿の狙いはそれらの講義の随所で講師が（ときに無意識に）例示する「社会人基礎力」の具体的な実践と発揮、およびそれらにつながる背景と文脈に焦点を当て「先輩たちの豊かな職業人生から社会人基礎力を学ぶヒント」を示すことにあります。

今日の大学生たちは今後の社会がどのようなかたちになるのかという大きな不安を抱えながら一人ひとりが自らのキャリアの未来に向き合っています。この不確実さが増す時代だからこそ、先達のキャリアの中で磨かれてきた時代を超えた仕事の本質、人生の岐路における究極の選択、多くの出会いの中で築いてこられた人脈という財産など、エバーグリーン講座が伝えるものは、受講生にとって暗闇の中の一筋の光となっているに違いありません。

なお、本稿の素材となった令和 4 年度エバーグリーン講座の講義録は過去 9 年間に引き続きライターの谷口雅春さんに作成していただきました。講義期間中は毎週小樽まで通ってすべての講義を聴講していただくことで、講師たちの想いと現役学生との心の交流を汲み取り素敵な言葉にまとめ上げていただきました。ここに記して謝意を表します。